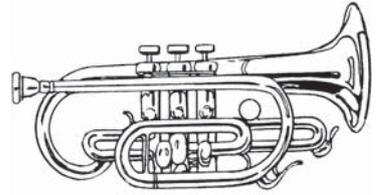


連発ピストル。

●**コルネット**(名)〔cornet〕〔音〕金管楽器の一つ。トランペットに似るが、前後が短い。やわらかい音色を出す。



〔コルネット〕

●**ゴルフ**(名)〔golf〕クラブで、ボールを打ち、順々にコースにある十八のホール〔凹〕に入れて勝負を争うスポーツ。「―パンツ〔凹〕ゴルフ用のズボン」・「―場」・「―リンク(ス)〔名〕〔golf links〕ゴルフ場。ゴルフコース」。

●**ゴルフファー**(名)〔golfer〕ゴルフをする人。

●**これ**〔×此れ〕・〔×之〕・〔△是〕**■**(代)①自分に近いものを指し示すことば。「―は母の形見です」②この〈人〉者。「―は私のせがれです」▽〔↓それ・あれ〕③すぐ前の話(に出したものと)に焦点シヨウテンを当てて言うことば。「だれも見なかったと言う。―がふしぎである。―らの問題点」↓:それ③。④今、このとき。「―からのことを考える。―までのことは水に流して」⑤〔文〕こ。「―にひかえて〔凹〕待って」おれ**■**(副)口調を強めるときに使うことば。「弁明―つとめる・準備の都合も―あり」●**これ有るかな**〔文〕これはちやうどよかった。授業が休みになったので、―と街に出た**●**●**これでもか**〔文〕①何度もしつこく責めたり攻撃(コウゲキ)したりするようす。「―と相手をなぐる」②十分すぎるほどあたえたり見せたりするようす。「―というほどたくさん料理が出た。―という厚化粧(アツゲシヨウ)」●**これより先**〔文〕この時よりも前。この時以前。●**これをもって**〔文〕これで。「これをもって―は、ていねいな言い方」―式を終了(シユウリョウ)いたしました**●**●**これを要するに**〔文〕これをまゝとめて言うこと。要するに。

●**これ**(感)〔此これ〕〔話〕よびかけるとき、軽くしかるとき、注意するときなどのことば。「〔この〕よりは上品」

コルネット ▼ ころ

●**これい**〔語例〕(名) 単語の用例。

●**これいかい**〔互礼会〕(名) ある団体の人々が集まって、新年のあいさつをしあう会。「新年―」

●**これいぜん**〔御霊前〕(名) ①死んだ人のみたまの前。②みたまの前に供える供物(クモツ)・香典(コウデ)などに書くことば。「仏式では、ふつう四十九日の前まで使う」

●**これから**(名・副) 今、このときから。「―がたいへんだ。―という時」

●**これきり**(名・副) ①これだけ。「残り―」②これで終わり。「もう―にしよう」▽これ(きり)。

●**コレクシヨン**〔名・他サ〕〔collection〕〔趣味〕シユミなどで集めたもの。集めること。収集(品)。(名)〔フ collection 作品〕〔シーズン前に開く〕高級な流行服の新作発表会。ショー形式でおこなう。「ペリー」

●**コレクター**(名)〔collector〕収集家。

●**コレクティブハウス**(名)〔和製 collective house〕共用のスペースをもち、複数の家族で食事や育児などをともにできるようにした集合住宅。

●**コレクトコール**(名)〔collect call〕〔電話で〕料金受信人(ばら)の通話。

●**コレクトマニア**(名)〔collectomania〕収集狂(キヨウ)。

●**これこれ**〔代〕多くのものごとを一つ一つとりあげる代わりに言うことば。しかじか。「理由は―だ。―こういうわけで」**■**(感)〔話〕目下の人に注意するときなどに使う呼びかけのことば。「〔この〕よりは上品」

●**コレステロール**(名)〔cholesterol〕〔生〕細胞(サイボウ)のはたらきを保ち、ホルモンの材料になる、脂肪(シボウ)に似た物質。この血中濃度(ノウド)が高くなると、動脈硬化(コウカ)を引き起こすものになる。コレステリン(cholesterin)。「―の多い食品」↓:HDLコレステロール・LDLコレステロール。

●**これっぽち**(名・副) (俗)これだけ。これっぽち。「すこしかないことについて言う」

●**これという**〔これと(言う)〕イフ(連語) 特に取り立てて言う(よう)な。「―変化も見られない。これといって変わった症状(シヨウシヨウ)もない」

●**これは**〔連語〕特によい。特にすぐれている。「―と思う人物」**■**(感)〔話〕強い感動をあらわす。こりや。「―しまった。―気づかなかった」●**―これは**(感)〔話〕ひどくおどろいたり、恐縮(キョウシヨク)したりしたときのことば。「―みなさんおそろいで」●**―したり**(感)〔古風〕意外なことに気づいたときのことば。「これはおどろいた。あきれた。しまった。」「いや、―、どうしたんだね」↓:したり。

●**こればかり**(連語) たったこれだけ。これっぽち。これっぽち。

●**これほど**(副) このように強い程度。こんなにまで。「―(ひどい)とは思わなかった。―言ってもわからないのか」

●**これまで**(連語) ①今まで。②こままで。③これと終わり。「きょうは―」

●**これみよがし**〔これ見よがし〕(名)〔見よがし↑〕見るの命令形「見よ」+終助詞「かし」これをみると言わんばかりに。得意そうにふるまうようす。「―にさわぎ立つる」

●**これももの**(名) しぐさで示す、(好ましくない)ことから。例、手刀(テガタナ)で首を切れば解雇(カイゴ)。これもん。「―じゃべれば―〔凹〕解雇」

●**これもん**〔これ(者)〕(名) (俗) ①やくざ。「顔にきずあとのあるしぐさで示したことから」②これもん。

●**コレラ**(名)〔cholera 虎列刺〕〔医〕コレラ菌(キン)によって小腸(コウチョウ)がおかされる急性の感染症(カンセンシヨウ)ウ。ころ。

●**ころ**〔頃〕(名) ①〔文〕時期。時分。「―もよし、花見にでも行くか」②その(時期)時刻。「子どもの―。もう帰る―だ」**■**(造語)〔―頃(ゴロ)〕①だいたいその時分。:ころ。「六時―五月―春―」②ちやうどよい(時期)状態。「食べ―見―」

コルネット ▼ ころ

のせまい性格。

しましま【×縞々】(名)

しま模様。「一」のシヤツ」

しまだ「島田」(名)↑島

田まげ。髪方ミを「一」に

ゆう」●「まげ」島田

【×鬘】(名) おもに未婚

(ミコン)の女性がゆった日本髪(ガミ)。

↓::高島田。

しまだい「島台」(名)

蓬萊山(ホウライサン)の

形をまねた、祝儀(シユウ

ゴ)のかざり物。

しまつ「始末」【名・

他サ】①「文」はじめと

おわり。はじめからおわり

までの事情。「脱走(ダ

ツソウ)ゲーム記」②

「結果としての」(悪い)ありさま。「この一です」③かた

づけること。処理すること。「一をつける・火の一をする・

布の端(ハシ)がほつれないように一する・裏切り者を一

する(「殺す」)【名・他サ・形動ダ】「古風」儉約(ケ

ンヤク)。「一して使う・一な人・一がいい・一屋(「しま

りや)」「●「始末が悪い」(一)あつかうのに困る状態だ。

手にあまる状態だ。●「始末に負えない」(一)その人の

力では処理ができない。●「一しょ」「始末書」(名)

「事故」不始末をわびるため)事情をくわしく書いた文

書。

しまつた(感)「話」しくじった。困ったことになった。

「一、一足おそかった」(↓しめた)

しまづたい「島伝い」一ツタヒ(名) 島から島へとわた

つていくこと。「一」に舟(フネ)を進める」

じまど「地窓」(名) (部屋やろうかの)外に面する下の

ほうにつけた、そうじ用の小さい窓。はき出し窓。

しまながし「島流し」(名) ①遠島。流罪(ルザイ)。②

「俗」遠いへんぴな土地に転勤させられること。

しまぬけ「島抜け」(名・自サ) 島流しになった罪人



【しまだまげ】



【しまだい】

しま

が、島をそつとぬけ出すこと。また、ぬけ出した罪人。島

破り。

しまびらき「島開き」(名・自サ) ①無人島を、キャン

プ用に公開すること。②島をあげて祭りの行事をおこ

なうこと。「佐渡サドの」

しまへび【×縞蛇】(名) 「動」へびの一種。からだは黄

色で、頭から尾(オ)の方向に黒いしま(縞)がある。無

毒。

じまま「自」(×儘) (名・形動ダ) 自分勝手。気まま。

しまめ【×縞目】(名) しまの織物の、色や模様のぐあ

い。

しまもり「島守」(名) 「文」島の番人。

しまやぶり「島破り」(名) ↓島抜(え)け。

しまらない「縮まらない」(形) ①緊張(キンチョウ)感

がない。しまりがなく、「一顔」②ぶさまで、なまけない。

だらしない。「へまなことをしたときなどに言う」「一話

派生)縮まらない。

しまり「縮まり」(名) ①しまること。②ひきしまること。

緊張(キンチョウ)。「一がない」③戸じまり。●「一や

「縮まり屋」(名) 儉約家(ケンヤクカ)。しまつや。

しまる「閉まる」(自五) ①内と外が分かれるように、

ぴったりとさえぎられる。「戸が・ガスの栓(セン)が」

②「錠(ジョウ)が」かかる。③「営業が」終わる。(休み

廃業(ハイギョウ)になる。「日曜は問屋が閉まっている」

「閉まる」(自五) ①ゆるんだところがなくなる。

「ボルトがしっかりと」②かたく結ばれて、とけない状

態になる。「ひもが」③肉がかたくつまる。「縮まった

からだ・身が縮まったさかな」④「気持ち」が「ひきしま

る。「縮まって行こう!」⑤むだづかいをしなくなる。

「縮まった人」⑥「経」相場が上がりそうになる。▽

(↓緩(ユル)む) ↓::縮まらない。

じまわり「地回り」一マハリ(名) ①近在をいつも回っ

て歩くこと(商人)。②「俗」ならず者がさかり場をう

ろつこと。また、そのならず者。

じまん「自慢」(名・他サ) 「他人に対して」自分のこと

を、自分でりっぱだと思おうようを見せること。「一話・

力」一高慢(コウマン)ほかの内」派生)自慢げ。

●「たらしい」自慢たらしい」(形) いかにも自慢す

るようすだ。

しまんろくせんにち「四万六千日」(名) 《仏》観

音(カンニン)の縁日(エンニチ)。七月十日。この日に参拝

すると、ふだんの四万六千日分に当たる功德(トク)が

さずけられるという。

しみ【::衣魚】(紙魚) (名) 《動》和紙を使った本や

衣服を食いあらず昆虫(コンチュウ)。からだは細長く、銀

白色。例、ヤマトシミ。

しみ「染み」(名) ①しみてよごれたあと。「一がつく・油

の」一ぬき」②ホルモンの作用や老化によって皮膚

(エ)の表面にあらわれる、茶色のまだら。

しみ「詩味」(名) 「文」詩の(あじわい)おもむき。

じみ「滋味」(名) 「文」ゆっくり味わうとわかる、深い

「あじ」印象。「一きく(掬)すべき名作」

じみ「地味」(形動ダ) ①はなやかでなく、目立ったと

ころもないようす。(↓派手) ②「俗」「一」の形で

おもてにはっきり出さないが、「一にうれい」一に痛

い。一に値上げして」派生)地味さ。

シミーズ(名) (フ chemise) 《服》↓シユミーズ。

しみいる「染み入る」(自五) 「文」しみこむ。

しみこむ「染み込む」(自五) 中までしみる。

じみこん「地味」(婚) (名) 「俗」結婚式・披露宴(ヒロ

ウエン)の費用をひかえめにする。 (↓派手婚)

しみじみ(副) 深く心にしみて。しんみり。「一(と)思い

出す」

しみず「清水」一ミヅ(名) 地中や岩の間などからわき

出る、澄(ス)みきった水。「こけ(苔)一」

じみち「地道」(形動ダ) 目立つことなく、手がないよ

うす。着実。「一な研究」派生)地道さ。

しみつく「染み(付)く」(自五) ①しみて、とれなくな

たぶん▼たま

たぶん「他聞」(名)「文」他人が聞くこと。ひととき。「一をはばかる」

たぶん「多分」(名)①たつきん。「一のお志をいた

だき、ありがとうございませう。一に影響(エイキョウ)を受けた」②「多分」(副)「推量のことばを下にともなつて」断定するにはすこし自信のないとき

に使うことば。おそらく。「あしたは一雨だろう」↓おおかた③。アケ■平板。■たぶん。

だぶん「駄文」(名)「つまらない」文章。「自分の文章をけんさんして言うこともある」

たべあるき「食べ歩き」(名)①名物料理やおいしいものを、あちこち食べて歩くこと。②「俗」「食べ歩き

①」の記事。「全国ラーメン」表記②は、「食べあるき」なども書く。動「食べ歩く(自五)」

たべあわせ「食べ合わせ」アハセ(名)「くいあわせ。たべかす」食べ(×滓)「(名)①食べ残し。「食器や一で

よごれたテーブル」②「口の中の」食べもののかす。

たべがら「食べ殻」(名)「弁当など」食べてからになつた入れ物やくだもの皮など。

たべごたえ「食べ応え」ゴタへ(名)「食べたときに」量として十分であること。「一のある豚(トシ)カツ」

たべこぼす「食べ(×零す)」(他五)「食べ物を口や手から落として周囲をよごす。「菓子(カシ)をぼろぼろと

一」食(×零す)。

たべごろ「食べ頃」(名)「食べていちばんおいしい(時期)時節」。「みかんの一」

たべざかり「食べ盛り」(名)「成長期の子どもが」いちばんごはんを食べる時期。

たべさせ「食べさせる」(他下一)「やしなう。食わせる。食べさす。「家族を一」

たべざらぬ「食べ初め」(名)「↓くいぞめ」

たべちらす「食べ散らす」(他五)「あれこれ箸(ハシ)を

た

つけて、きたなくする。食べちらかす。食い散らす。たべで「食べで」(名)「くいぞめ」。「一がある」

たべもの「食べ物」(名)「生きていくために」食べるもの。しよくもつ。「明日の一にも困る」

たべよごし「食べ汚し」(名)「食べちらしたものを。たべる」食べる(他下一)①食物を飲んで、おなかに

入れる。「まんじゅうを一ごはんを一」食(×食)する(他一)②生活する。「この給料では食べていけない」③「古風」(酒を)飲む。「そちは、さき(酒)は一か」▽「ふつう」食(×食)する(他一)「食べる」と言うことがある。「自動車

がすくくエネルギーを一」↓食(×食)する(他一)「えきの一がいい」可能「食べられる。食べれる」(俗)「おしゃべりする。名」駄弁り。

たべん「多弁」(名・形動)「文」口数が多いこと。多言(タゲン)。「一をいましめる」派生「多弁さ」

だべん「駄弁」(名)「くだらないおしゃべり。むだ口。一を弄(ロウ)する」

たば「鬚」(名)①日本髪(ガミ)の、うしろのほうに出た部分。②「俗」(商売)女。

だほ「拿捕」(名・他サ)「敵の」船などをとらえること。捕獲(ホカク)。

だぼ(名)①「俗」短く突(ツ)き出た(部分)もの。突起(トツキ)。②「動」↑だぼはぜ。

ダボ(名)↑ダブルボギー。↓ボギー。

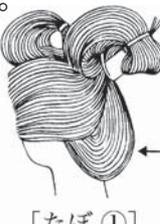
たほう「他方」(文)「(名)他の方向。もう一方。一から見ると一では」接「それに対して」別のほうからみると。もう一方では。「型にとらわれてはならない。一、型を守ること大切だ」

たぼう「多忙」(名・形動)「仕事が多くていそがしいこと。一をきわめる」派生「多忙さ」。

だぼう「打法」(名)「野球・ゴルフなどで」打ち方。

だぼう「打棒」(名)「野球で」バット。打撃(ダゲキ)。「一大きいふるう」

たほうめん「多方面」(名・形動)「多くの方面。



【たば①】

だぼく「打撲」(名・他サ)「文」打つこと。たたくこと。「一傷(打)たれて、また、打ちつけて、皮膚(ヒダ)の下に受けたきず。うちみ」

だぼシャツ「ダボシャツ」(名)「(俗)やし(香具師)などが着るシャツ。ゆつたりした短い筒(ツツ)そで、えりがなく、前をボタンでとめる」

だぼはぜ「だぼ(×鰯)」(名)「ダボハゼとも書く」①「動」川口付近などにすむ小形のハゼ。せなかは黒っぽく、腹は灰色。形はみにくい。えきにすぐ食いつく。だぼ

②「俗」(野球で)ボールだまにすぐ手を出すバッター。「すぐ引つかかることから言う」

だぼら「駄(×法×螺)」(名)「(俗)いかにもいいかげんだとわかるようなほら。でたらめ。一をふく」

だほん「駄本」(名)「くだらない本」。

たま「玉」(名)①まるい形をしたもの。「目の一・パチンコの一」②「大つぶの」汗(アセ)③「レンズ」④「めがねの一」⑤「電球や蛍光(ケイコウ)灯」⑥「一が切れた」④うどんなどのめんをまるめたもの。「温一」⑤美しいものごとをほめて言うことば。「一のような子一のかんばせ(きれいな顔)一のはだえ(きれいなはだ)」⑥とうといもの。「一のみ声」⑦ネコにつける代表的な名。⑧「俗」美しい女。⑨「俗」人物。「たいした一だ」⑩「俗」(企業(キギョウ)で)商品や企画。「一がな

い」⑪「俗」きんたま。⑫「俗」いのち。「一を取る(殺す)」表記⑦⑫は「タマ」とも書く。アケ⑦たま。他は、たま。造語①たまご。「ハム・サンド・かに一」②「一玉」(たまごのはいったお好み焼きのたね。天。「ぶた一」

たま「玉・珠」(名)①「壁」(まるい形をした)宝石・真珠(シンジュ)など。「一の(玉)で作った」さかずき②

そろばんの軸(ジク)にはめこみ、上下に動かして数をしめすもの。●玉にきず(玉)「すぐれたものなのに、わずかな欠点があるというたとえ」●玉磨(ミガ)かざれば光(ヒカリ)なし(玉)「文」すぐれた才能があっても、努力して学ばなければ、りつばな人になることはできない。●璧を懐(イダ)いて罪あり(玉)「文」身分不相応な宝を持

こした格子模様のある布地。

ワッペン(名)〔ト Wappen〕紋章(モンショウ) ①ブレザーなど、衣服の胸・うでにつける、織物製のマーク。エンブレム。②胸につける、目じるしのマーク。

わて(代)〔関西・北陸方言〕わたし。

わとう(和陶)〔名〕〔文〕日本ふうの陶器。(↑洋陶)

わとう(話頭)〔名〕〔文〕話題。●話題を転じる(回)

〔文〕話題を変える。

わどう(話道)〔名〕〔文〕話術のみち。

わどく(和独)〔名〕 ↑和独辞典(『日本語の見出しに、ドイツ語をあてた辞典』)。(↑独和)

わとじ(和綴じ)〔トヂ(名) 和本のとじ方(をした)書物〕大和(ヤマト)とじ・

四つ目とじ・亀甲(キッコウ)とじなどがある。「

の本」(↑洋とじ)

わな(〔x〕罫)〔名〕①鳥

やけものをおびき寄せて

つかまえるしかけ。②人

をおとしいれる計略。

「一にかける」

わな(〔x〕輪奈)〔名〕糸・

ひもなどを輪のようにま

るめたもの。ループ。わさ。「一に通して結ぶ」

わな(連語)〔方〕あたりまえだ、とひとりごとのように言

うことば。「し」ことではない「どうせなら行きたい」

わなげ(輪投げ)〔名〕 立てた棒に、はなれたところから

輪を投げ入れる遊び。

わななく(自五)〔からだか〕がたがたふるえる。「おそろ

しさに一」〔名〕わななき。他動 わななさせる(下)。

「くちびるを一」

わなま(和生)〔名〕 日本ふうの生菓子(ガシ)。

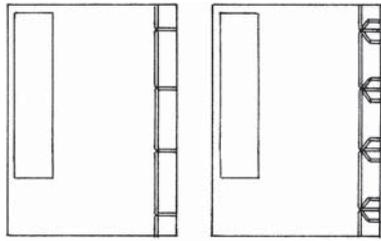
わなわな(副・自サ) わななくようす。「こわくて一とふる

える」

わに(〔x〕鰐)〔名〕 ①〔動〕形はトカゲに似ているが、ひじ

ょうに大形の動物。熱帯の水べにすむ。皮を利用する。

ワッペン▼わほう



四つ目綴じ

亀甲綴じ

〔わとじ〕

〔アリゲーター・クロコダイルに大別される〕 ②〔山陰(サニン)方言〕〔動〕さめ(鮫)。

わにあし(〔x〕鰐)足(名) 歩くとき、足首の方向がな

なめになること人。「そとわに」うちわにがある。

わにがわ(〔x〕鰐)皮(名) ガハ(名) ワニの皮。黒茶色でつ

やがある。かばん・がまぐちなどに使う。

わにぐち(〔x〕鰐)口(名) ①〔仏〕仏堂・拜殿(ハイデン

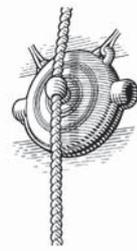
などの前ののきにつるし、

参拝者が鳴らす、平たい

鉦(カネ)に似たもの。下に

広いさけめがある。②ひど

く横に広い口。



〔わにぐち ①〕

わにさめ(〔x〕鰐)〔名〕 〔動〕〔方〕ふか(鱈)。

ワニス(名) [varnishの变化] 〔理〕↓ニス。

わぬの(和布)〔名〕 和服の生地(キジ)のはぎれ。「

パッチワーク」

わね(連語) ①〔女〕相手に知らせて、同意を求めるこ

とば。「お茶を入れてあげる」「わねを高く言う」 ②

〔話〕感動をしめして、同意を求めることば。わねえ。「よ

く来た」「女」・だいなのは実用性です」「男」

「わねを下がり調子に言う」

わのり(輪乗り)〔名〕 〔馬術で〕輪をえがくような形

に、馬を乗り回すこと。

わはは(副) 大声で笑う声。「一と愉快(ユカイ)に笑う」

わび(〔x〕侘び)〔名〕 〔茶道・俳句で言う〕しず

かでおちついた、簡素なおもむぎ。閑寂(カンジャク)。「

の境地」

わび(〔x〕詫び)〔名〕 わびること。謝罪。「お一がかな

う」 ●わびを入れる(回) あやまる。

わびい(〔x〕詫び)入る(自五) 心からあやまる。てい

ねいにわびる。

わびごと(〔x〕詫び)言(名) わびることば。

わびしい(〔x〕侘び)〔形〕 ①なぐさめてくれるものが

なくて、心がしずむようだ。「わびしく暮らす」 ②ものさび

しい。「人けのない」風景 ③まじしめて、さむぎむとし

た感じだ。「一食事」 派生 侘びしげ。侘びしさ。

わびじょう(〔x〕詫び)状(名) おわびの手紙。

わびじょうもん(〔x〕詫び)証文(名) 〔文〕相手に対

して失礼なことをしたおわびのしるしに書く文書。

わびすけ(〔x〕侘助)〔名〕 〔植〕ツバキの一種。冬、赤

白くて小形の花をひらく。

わびずまい(〔x〕侘び)住まい(名) ①わびしく

住んでいる家(のようす)。②ひっそりと住んでいる家(の

ようす)。

わびちゃ(〔x〕侘び)茶(名) 華美(カビ)をしりぞけ、わび

の境地を求める茶の湯。千利休(センリキユウ)が大成

した。

わびね(〔x〕侘び)寝(名) 〔文〕わびしくねること。「一の

つらさ」

わびる(〔x〕侘びる)〔文〕 ①(自上一) わびしくなる。

「わびた」(二)ではないが、心をひかれるよさのある「ひな

歌」(他上一) 〔動詞のあとについて〕 ①さびしく

…する。「住み一」 ②…しながら、気をもむ。「待ち一

たずね一」

わびる(〔x〕詫びる)〔他上一) あやまる。謝罪する。「こ

ぶさたを一」

わふう(和風)〔名〕 ①日本に昔からある様式。日本

ふう。「一建築」(↓洋風) ②〔文〕あたたかい風。春

の風。

わふく(和服)〔名〕 〔日本に昔からある〕着物。「一

姿」(↓洋服)

わふつ(和仏)〔名〕 ↑和仏辞典(『日本語の見出

しにフランス語をあてた辞典』)。(↓仏和)

わぶん(和文)〔名〕 ①日本語の文章・文字。「一英

訳」和訳(『わかりやすい日本語に書き直すこと』)

(↓欧文(オウアン)) ②平安時代の、かな書きの文章。

〔漢文や和漢混交文に対して言う〕

わへい(和平)〔名〕 〔文〕仲なおりして平和になるこ

と。「一交渉(コウショウ)」

わへい(話柄)〔名〕 〔文〕話すことから。話題。

わほう(話法)〔名〕 〔文〕 ①話し方。「セールス一す

ぐれた一」 ②自分の話や文章の中で、他人の話を再

わ